

令和4年度 第1回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～川越市スポーツ推進委員連絡協議会～



日時：令和4年7月7日（木）

午後6時30分～8時00分

場所：川越市中央公民館 3階軽体育室

参加者

川越市スポーツ推進委員連絡協議会 20名

出席者

市長、宮本副市長、総合政策部長、市民部長、文化スポーツ部長、
都市計画部長、教育総務部長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・校区少年少女スポーツ大会について	7
都市基盤・生活基盤	3	・多目的な広場や公園の拡充について ・公園の設置について ・市民体育館について	2 16 17
産業・観光	0		
地域社会と市民生活	6	・学校開放事業・施設の利用方法について ・市主催のスポーツ事業について ・スポーツ推進委員の推薦について ・スポーツ推進委員の今後について ・スポーツ推進委員の広報、啓発について ・スポーツ推進委員の研修について	3 4 12 14 16 18
住民自治・行財政運営	0		
計	10		

意見交換（要約）

《多目的な広場や公園の拡充について》

意見

川越市は小学生が遊べる広場や公園が少ないのが現状です。

多目的な公園や広場の拡充は、前市長の時から要望していますが、まだ叶えられておりません。小中学生が思い切り遊べて、自転車の練習や、ボールを使った練習ができるように、練習試合ができるような多目的な公園や広場を整備して欲しいと思っております。

広場などは震災時の一時避難場所にもなりますし、自治会の集会や行事にも使用できます。特に高階地区は、市内でも公園の数が少ないので、整備を進めて欲しいと思っております。

都市計画部長

市といたしましても、市内に公園が少ないということは認識しているところでございます。

都市公園は、人々が集い、憩うレクリエーション空間となり、都市環境の改善にもつながると考えておりました、市民生活になくってはならない施設だと考えております。

一方で、ボールを使った練習試合ができるような、多目的な公園、広場の整備ということになりますと、広大な土地が必要となりまして、その整備に多くの時間と費用が必要となり、早期の実現がなかなか難しいという状況でございます。

市の財政状況は大変厳しい状況ではございますけれども、今後整備費が十分に確保できるのであれば、公園整備の可能性がある土地の確保や、市民の方々の公園整備への理解、さらには市内の公園の配置状況のバランスを考慮しながら、その整備について、市としましても積極的に実施していきたいと考えております。

市長

おっしゃられるとおり、川越市は、住民1人当たりの公園面積が全国でも一番少ない方であるという事実がございます。

その中でも特に高階地区は、公園が少ないという状況は重々認識しておるところでございますが、なかなか市街化してしまった地域に、広いスペース、土地を

確保するというのは、かなり課題が多い、ハードルが高い問題であります。

実現は困難かもしれませんが、小学校や中学校のグラウンドを、部活などで使っていないときなどに地域の子どもさんに使ってもらえるような方策も、考えております。これに関しては、やっぱりいろんなハードルがありまして、そこで事故が起こった場合に市や学校は責任を問われる心配があるのではないかと聞いたこともありますが、川越のように市街化しているところに広い土地を確保することが難しいという状況の中では、損害保険などを活用するなど何らかの形で、解決の方向性を見いだしていかななくてはならないかなと思っておりますので、若干まだ時間はかかりますが、市としていろいろ努力をしていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

《学校開放事業・施設の利用方法について》

意見

学校開放でいろいろと問題が起きているということを聞いております。学校開放を行いますと、長く使っているクラブは、既得権のような形で、非常に融通がきかなくて、学校行事やPTA行事、育成会行事をする時に反対してくるという状況も聞いております。ですので、学校施設、特に公共施設を借りているという意識がずれてきているクラブもあります。

開放委員会でグラウンド、学校の草取りや体育館の清掃を行うことで、借りているという意識がでてきます。そうすれば大事に使っていただけるのではないかと思います。

今後、学校を利用している団体に対して、大事な学校施設を使っているという意識付けをして欲しい、ということです。

また、新しくクラブを立ち上げたりすると、週4から5回も使っているクラブがあつてなかなか入れないという苦情も、つい最近ありました。そういうことをやっぱり防ぐためにも、規制をした方がいいのではと希望します。

文化スポーツ部長

学校開放で施設を利用する際は、清掃や整理整頓、喫煙所のマナーを守っていただくよう、通知や登録証などに注意事項を記載するなどして、利用団体に提示して周知しているところではございますが、マナーの順守を徹底するよう、さら

に周知を図ってまいりたいと考えております。

一部の開放委員会では、行事として校内の清掃や草むしりの実施や、周辺地域の防犯パトロールを行っているという話を伺っております。そういった学校施設を大事に使うという意識付けができるよう、今後学校開放の、地域活動としての行事の推奨を検討していきたいと考えております。

学校開放は、身近な場所でスポーツを楽しむもので、なくてはならないものであると考えております。休日や余暇における学校施設の有効な活用や、防犯面や非行防止の効果も期待できますことから、今後も積極的に活用していただくことを考えております。

意見

学校開放事業をするために、開放委員長や管理指導員をクラブの部長さんがやっているところがあります。そうするとどうしてもそのクラブが優先になる可能性があります。

そういう偏見とかいけませんけど、スポーツ推進委員がかかわった方が、私は公平な利用ができるのではないかと、個人的に思っております。

難しいとは思いますが、せつかくスポーツ指導員として任命されておりますから、各学校で効果が出ていますので、そういう形で、推奨していただければと、私個人的に思っております。

《市主催のスポーツ事業について》

意見

コロナがどうしようもない状況にあり、いまだに読めない。今また増えてきています。感染力も強い。今度第4回目のワクチンも打つ、とにかくどんどん後追いの接種をしていく、というような感じで、どうにか抑え込んでいる現実がある。それをやったから完璧にいい方向に見えてくるのかっていうと、違うわけですよ。下がってきたなあと思っていればまだ上がってきて、また下がってきたなあと思ったら上がる。非常に厳しい状況にあるなと思っています。

特に東京マラソンが開催されましたが、川越市で私たちが担当させていただいているハーフマラソンが果たしてどうなるのだろう、万全な体制をしいて、特に感染の拡大、いろんなことは起きませんでした。全国でもマラソン大会が開催さ

れ始めています。

ただ、何て言うのでしょうか、捉えようのない不安というものがずっとつきまわっています。実際、2年から3年間、スポーツ推進委員が順次交代するわけですが、役員交代もするわけですが、スポーツ推進委員が計画している、川越市の方針に基づいて開催しているいろんな行事は、ほとんどありませんでした。

そういう状況の中で、今年を迎え、今年は100周年記念だから、何とか前に1歩でも2歩でも、経済的な面も含めながら総合的に判断をしながら、開催をしていきましょう、万全の体制を組んでやりましょう、というので今進んでいるわけですが、この2年間の中でも、やりたくてもできない方々、スポーツ体育、スポーツ関係などでやりたいけどできなかった方々、そういう方の気持ちというのは、十分しん酌していただいた中で、今後、これから川越市の方針として、そういうコロナという、つかみようがない、得体の知れないものに対して牽制、警戒を、対策を十分とりながら、どのように今年、来年進めていっていただけるのか、それを明快にお答えいただきたい、そう思っております。

文化スポーツ部長

令和2年度、3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、当初予定しておりましたイベントや教室、年間30以上予定しているものがほぼできない状態でございました。

大きな事業といたしましては、市民体育祭や生涯スポーツフェスティバル、また、小江戸川越ハーフマラソンなど、本市のスポーツイベントを代表する事業の多くが中止となってしまいました。令和4年度におきましては、コロナも3年目になりますので、今年度、少しずつではありますが、事業が始まってきています。

新型コロナウイルスの影響でいったんスポーツから離れてしまった方々に、また再びスポーツの楽しさに触れられるよう、また参加していただけるよう、感染対策を十分に、万全に取り組みながら、戻していきたいと考えております。

今年市制施行100周年になりますので、オリンピックレガシーを継承するために、徐々にスポーツイベントを開催していきたいと考えております。

また、ここ数日のように、第7波と呼ばれるような、感染が増えてきてしまっておりますので、ハーフマラソン等につきましては、開催する方向で進めていますが、今後どういう形で、皆様が安心して安全に走ることができるかと、それぞ

れのところで検討し、また、コロナと正しい付き合い方といいますか、新しい日常生活を取り入れながら、スポーツ環境、スポーツに関わる機会を構築できるように努めていきたいと考えているところでございます。

意見

いろいろ今計画されているものを、例えば組織委員会の理事会とかを気にしていて、人数、総数減らして、これはマラソン大会に関してなんですが、総数も減らす、というようなことと、スタートの仕方を変える、という考えだと基本的な、根本的なところの話が出てきているのですが、この状態で今、第7波に近い状態、そういう状況の中でまた厳しくなってくる可能性があります。この辺まで来れば感染拡大が止まる、この辺まで感染が進めば感染拡大が止まる、という状況が読めない中で、今回の開催の見直しというのは、今後される予定はありますか。

文化スポーツ部長

マラソンの役員会等がございまして、そちらのほうで検討してまいりたいと考えております。

市長

小江戸ハーフマラソンにつきましては、今おっしゃられたように、スタートの仕方などを、今まで一番多い、ハーフの部分で一遍にスタートしていたのを2回に分けるとかですね、そういう形で、密を避けるような形でやりましょうという方向で進んでいるのですが、新しい変異株の感染拡大が今始まった状況で、どうなってくるか見えない部分はもちろんございます。しかし外国の状況を見ますと、もう外国はほとんど皆さんマスクもしてないし、かなり感染が広がっているはずなのに、それほど規制をしているという情報も入ってないということもあります。だから断言ができないですけども、国としては、ここでまたコロナ感染拡大が、第7波が生じて、それほど厳しい自粛要請とか規制はないのではないかと私は見えています。仮に、例えば緊急事態宣言なんかになった場合は、何らかの形を変えて、人数を減らすというような形をとってでも、ぜひ実際にやりたいと思っています。

スポーツ行事に限らず、お祭りも、それから花火大会も、もう当然にやるという方向で進めておりまして、感染が本当に厳しい状況になったとしても、工夫して、何らかの形でやりたいと市としては考えています。

《校区少年少女スポーツ大会について》

意見

新型コロナウイルス感染症の影響で、2年連続事業が中止となりました。校区内での引継ぎがうまくいっていない校区や、新型コロナウイルス感染症や熱中症など、開催するにあたって懸念事項も多く、地域によっては育成会を脱退している地区もあり、また、開催の体制についても、主催でなく、主管である協議会が判断をしており、主催と主管の区別が不明確であるということがあります。

スポーツ大会を主催、開催するにあたっての体制を明確化してほしいと思っております。開催の判断は、どこがいつどのような基準をもってするのか、主催団体と主管団体の協議の上で決めるのか、などを決めてほしい。校区少年少女スポーツ大会の趣旨を理解したうえで主催である育成会をはじめとした関係団体に協力してほしい、ということなのですが、いかがでしょうか。

文化スポーツ部長

スポーツ振興課で校区少年少女スポーツ大会事務局を務めることで、スポーツ推進委員連絡協議会は本大会の主管団体となっております。

令和2年度、3年度につきましては、緊急事態宣言、また、まん延防止等の緊急措置が発令されたため開催自体が中止となっておりますが、令和4年度はどちらも発令されていないため、開催の可否については、主催であります川越市が主管団体であるスポーツ推進委員連絡協議会と協議の上決定いたしました。

本来、大会の開催可否及び大会の運営体制等につきましては、主催団体が判断すべきであると解釈しております。

前年度の末頃から開催可否について保護者から問い合わせが多くなりますことから、運営方法につきましては、年度の当初に市、教育委員会、青少年を育てる市民会議、子ども会育成団体連絡協議会、この四者によって共通認識を図るための協議の場を設けさせていただき、本大会に関する今後の運営のあり方など、関係団体のご意見を伺いながら、協力体制を構築してまいりたいと考えております。

意見

コミュニティスクールという言葉を、この頃言うようになりまして、実際には、少年少女スポーツ大会は、コミュニティスクールそのものではないかと私は感じます。その辺のところはいかがでしょうか。

学校教育部長

コミュニティスクール、聞きなれない方もおありかと思しますので簡単な説明をさせていただきますと、地域の方、そして学校とがそれぞれ当事者意識を持って、子供たちを育てていきたいと思いますという取り組みになってまいります。

従いまして、今ご指摘いただいたような、子供たちを育てていく上で、少年少女スポーツ大会の実施にあたっては、学校が会場となることはもちろんですが、地域の方々あるいはここでお集まりの方々も含めまして、実施のスタッフ、あるいは運営部隊として、なっただくことが大変喜ばしく、そして子供たちの健全な成長においては期待できる取り組みであろうかなと思しますので、具体的なところで申しますと、来年度から川越市の中では全校、コミュニティスクール体制をとってまいる予定でありますので、その辺ご協力いただければと思うところでございます。

意見

少年少女スポーツ大会は、今主催はこども会育成会という形になっているのですが、これは学校事業ではできないものなのですか。

学校教育部長

学校の課業時間ということだと、極めて位置づけは難しいのかなと思っております。それ以外のところで、課外の活動としての可能性は見いだせるかと思っております。

意見

なかなか学校のなかで、授業外という形で、先生方がそこへ参加して、みんなでやろうよという形がなかなか難しい。その辺のところを、校長先生なり何なりが教員の方々と一緒に、子供たちを何とかしてよという形、実際には校長先生も教頭先生も、体力が落ちているから何とかしてくださいと言いながらもなかなか参加はしてもらえない、という形の中で、少年少女スポーツ大会というのは素晴らしい内容のものできるのではないかなと思っております。

できれば、この、コミュニティスクールそのものが、練習が必要な種目にするとか、そういう形をとっていくと、地域の方々に教えを請うとか、そういう形のものがとれていくのではないかなと思っております。

実際に、子供たちに地域の方々と知り合っていただく、もう目的はそこにあるわけですから、やっぱり子供たちが地域の方々の、顔を覚え、名前を覚え、自分

の名前を覚えてもらうっていうのが、私は目的だと言っても過言ではないのかなと思っています。その辺のところ、これからの少年少女スポーツを少しずつ変えていけたらいいなと思っています。

また今、時期的に暑い時期という形になって、今は6月から12月までの間にやればいいですよっていう形にはなっていますが、これ一年を通して、どこでやってもいいですよっていう形にはなりませんか。

文化スポーツ部長

近年の気象状況等を見ますと、異常というくらい暑かったりして、熱中症の心配もありますし、熱中症対策っていうことから考えますと、期間をこの時期にと設けずに、できるところで開催していただいたほうがという気持ちもございますので、そちらにつきましては今後検討させていただきたいと考えております。

意見

学校行事の中に、そういう形のものを位置づけていただくことができないかなと。明確に学校行事として、民間レベルでもいいのですが、学校の都合によって開催しています、種目についても検討しますっていうような形で入れば、ずいぶん意欲は増してくると思います。開催にあたって、育成会の方を含め、校区の役員さん含め、どちらかという引き気味な感じがします。ですから、大変な状況で大変なことをやるわけで、暑い中でやったりすることは確かにかなりの負担感でもあるし、まず子供たちが集まってこないっていうようなことも現実にあって、学習塾を含めて色々なものがあつた時に、個々であたるには限界があつて、学校教育の中の位置づけの中で、クラブ活動でも何でもいいのですが、きちんと位置づけして、校長先生の方から、年間計画を立てる際に本校ではこういう種目をこの時期に、こういう形で、子供たちの健全育成ということを含めて、基本的には体力を向上させていくみたいな、体力アップを図るというような事も含めてですが、そういう形というものというのは不可能なものなのではないでしょうか。

検討もしていただくことはできないのでしょうか。というのは今、実際には参加者が少ない状況で、みんな習い事だとか学習塾だとかいろいろな理由をつけて、結局役員さんたちが出せっていうことかという話になってきていて、本来のスポーツ大会の目的というのはちょっと違ってきてしまっているというか、負担感だけが役員にあるので、なので学校教育の中で、何とか工夫はないのでしょうか。

お願いするばかりですけれども、スポーツ推進委員としては、とにかく学校、全学区困っている、頑張っている学校も中にはいらっしゃいますが、そういう現状があることをご報告させてください。

学校教育部長

可能性の範囲ということのお答えにはなるかと思いますが、先ほどご指摘頂いたコミュニティスクール、こういう制度の中で運営協議会に集まっていた折には、校長から学校運営の方針が示されます。それをご承認いただく場が協議会となりますので、その協議会の中で、具体的な、今、委員さんからもご説明いただいたような提案がされた時に、そこで委員さんに熟議を図っていただき、学校行事の中に組み込む、これが可能性として見いだせる範囲であるかな、と今はお伺いしながら回答させていただきます。可能性の範囲という回答ですが、そのようなところではないかと思っております。

意見

少年少女スポーツ大会をやる予定で今募集をかけているのですが、土曜日曜の練習時間とか試合や何かのために、生徒さんが集まらないという、これには学校行事としてちょっと権限が強いような行事にしてもらおうとすいぶん助かると思います。要するに何を言いたいかというと、子供さんたちは習い事が多くて、土日はそういう学校の教育以外の、そういうスポーツ大会には十分出られないということなのです。だからそれを、もうちょっと権限のある、学校の行事というような教育の一環として、地域と一緒にという意味合いでこういう大会をやる、そういうことをございます。

宮本副市長

P T A会長や育成会の役員としてスポーツ大会なんかも経験させていただいた中で、おっしゃる通り育成会のお母さん方は、なんでこんなことやらなくてはならないのみたいな話もある中で、ずっとやってきてもらっています。さらには地区会議の役員をやっていた中でも大会にも関わらせていただきましたが、地域と子供たちとが繋がる意味では練習をやった方がいいんですね。ただ一方で、お母さん方からすると、毎回行かなくてはいけない、勘弁してもらいたいという話で、行ったらその場でできるようなもので、ソフトボールとかドッジボールとかは勘弁してくれないかという話もあってですね、そこで学校の行事で、ある程度きち

んと位置付けてやってもらえれば参加してもらえというのはそのとおりだと思うのですが、また一方で、今までやっていなかったことを、さらにしんどいことができるのか、ということがあるのではと思います。今ここで出てきましたとおり、コミュニティスクールや、関わっている4団体と一緒に協議して、なおかつ、2年間、間が空いてしまっていたので、それを今年、少し再構築するような期間ということで、教育委員会の方で検討して、一緒に作り上げていけるといいと思いますので、まだ結論は出ないのですが、そういうことで協議を密にさせていただいてですね、各地区の話でもあるわけで、学校区だけではなくて、各育成会でチームを作ってやるわけですから、各地区の問題でもあるので、よろしく願いしたいと思います。方向性は完全には見えないですが、よろしく申し上げます。

意見

実際、今年度の少年少女スポーツ大会、これ実際には9校でした。それを聞いたとき私も本当にかっかりしたのですが、そういう状況に、2年やらなかっただけで、そういう状況に追い込まれてしまった、これからそれを取り戻していくためにはどうしたらいいのか、やっぱりスポーツ推進委員の方々が、学校で一生懸命お母さん方にお話をしても、暑いからとかコロナがとか言ってなかなか参加してもらえない。そういう状況の中で、学校での一言というのはかなり大きいかなと思います。

その辺のところ、学校の先生方に手伝ってくれていうことではなくて、やっぱり校長先生の一言、これは要するに、学校授業だからやってねっていう形のものがあると、やっぱりお母さん方の考え方も変わっていくのかなっていうことを思います。その辺のところを理解していただけるとありがたいなと思います。

意見

これから大縄跳びをやるので、学校のクラスに大縄をおいてもらって、休み時間に親しんでもらう、地区の方では、ラジオ体操を今年実施するので、ラジオ体操には子供たちも集まるので、そこで5分間から15分間、そういった形で少しでも子供たちが参加できるようにならないかと、今考えているところなのですが、大人のレベルで話し合ってもなかなかまとまらないことについては、子供たちに、例えば子供会、それぞれ自治会の会長にも子供たちがいるわけですから、そういう子たちも交えて話し合っていないとなかなか受け入れられるような会になら

ないのではないかと考えています。来年は、どこの地区でも、コロナでなくても、やらないというようなことになるのではないかと考えていますので、ぜひ子供たちの意見が反映されるような形でやっていけば、活路が見いだせるのではないかと考えています。

意見

私達がとった方法ですが、育成会の方々が、例えば、土日の練習は非常に負担感が大きくて、育成会の腰が引けてしまうということもあると思います。

本来は準備して、練習して、それで各地区で戦うのですが、それだと負けたチームが泣いてしまうといったことがあるので、一つは簡単にできる、先ほど言ったペタンクやボッチャとかを行う、また、ジュニアルールを使いました。

ジュニアルールは図書館にもないので、運営委員会に競技の説明を試みました。ジュニアルールの教えかたについては、開会前の30分で、ほとんど同じルールで教えることができました。ただ、校区で育成会の考えが違いますので、たまたま我々の校区は、やりましょうということで、広報は全部育成会で全部集めた形でございます。そういう方法をとれば、育成会の負担感もないし、我々は道具を準備してルールを説明する、それでおしまいですので、ただ、感染防止のために、8台、大型扇風機を回しました。1週間すぎましたが、一切感染の報告はありません。やはり、工夫次第で育成会の負担も軽減できる、自分たちも結構ジュニアルールでできる、育成会のお母さんたちもお手伝いできる、そういう方法、ジュニアルールを使うというのもひとつの手かなと思います。

《スポーツ推進委員の推薦について》

意見

元来、スポーツ推進委員というのは、まず地域の体育協力員を経験して、その後体育協力員の中から、自治会長、それから公民館長の推薦を受けて、スポーツ推進委員になると思うのですが、ここ最近の傾向を見ますと、自治会長さんも順番制、スポーツ推進委員も2年ごとにメンバーが変わる、そうしますと、川越市のグラウンドゴルフ大会とか、中央大会とか各大会のお手伝いをする、スポーツフェスティバルとかのお手伝いをする時に、ご迷惑をかける形で、中央大会でもグラウンドゴルフ大会でもミスが出てくるというのは、長年やっている方たちに

比べて経験の少ない分、ミスが多かったりして、非常にご迷惑をおかけするということがありました。そこで、是非、スポーツ振興課の方から自治会長と公民館長に、推薦の基準についてご案内がきていると思います。その辺で理解がされてなくて、順番制で新しく推薦される。今年度の改選時になられた方は、本当に高齢で、歩くのがやっとなの方が、スポーツ推進委員として推薦されているわけですね。そういうことがあってはいけないなと思いますし、是非これは、自治会長と公民館長の推薦の元で私たちはやらせていただいておりますので、是非ですね、その辺を徹底してやっていただきたいなと思います。地域として新しくスポーツ推進委員になられた方に対しても、きちんと教えてあげる、グラウンドゴルフなんかも、地区内で研修をしようっていうことになっているのですけれども、なかなかそういう形で徹底できないなと思っています。自治会長へも徹底していただければもうちょっと変わってくるのかなと思います

それからスポーツ推進委員の中でも、やはり、そのへんはお互い助け合っていないかなくてはいけない問題ですので、改選の時には意識してやっていきたいなと思っています。

また、川越市は女性の推進委員が少ないです。極端に少ないと思うので、これはやっぱり、時代に反しているというか、やはり女の人がどんどん出てきていただいて、やれるような形を取っていただければいいかなと思っています。

文化スポーツ部長

スポーツ推進委員ですが、地区によっては、長年継続している方もいらっしゃいますが、校区全員がすべて新しく変わってしまう地区も中にはございます。校区全員が新しい方に変更される場合、前任の方から引き継ぎ等をしていただいても、スポーツ推進委員の職務にあたっていただくところではありますが、令和2年度、3年度と事業が中止になっているものも多くありますので、引き継ぎが難しかったというところもあるかと思っています。ただ、スポーツ推進委員の職務としましては、スポーツの実技の指導を行うことや、また、住民のスポーツ活動の促進に、育成に努めるということをございますので、そういう内容をきちんと書いた上、今後につきましては、新任のスポーツ推進委員が活動を理解していただけるように、役割について明記していきたいと考えております

意見

スポーツ推進委員の1期2年の中で、1回も顔合わせなかったっていう人もいるわけですよ。そういう方々にも、一生懸命やっている人と同じだけの報奨金が出ているわけですね。その辺のところの改革っていうのができれば良いと思うのですが、何らかの手立てはないものでしょうか。一生懸命やっている人は月に何回も足を運んでいただいてやっているわけですが、そういう人と、差がありすぎると。その辺のところを、全額2回目の時に渡すのではなくて、2回目のものは出た回数に応じたものを割振るとか、そういうような方式をとれるといいな、と思っています。

その辺のところを、多分市の方では難しいのだろうなと思いますが、考えていただけると、ありがたいなと思います。

意見

体育協力員の推薦を、自治会長がやっているのですが、校区に複数の町があって、町のそれぞれの自治会長が、その地区の協力員を推薦しているのですが、今回起こった事例としては、協力員として協力してくれる人がいない、ということで、市の方に提出されて、今年うちはないからという提出をされたのです。それで、私の方が理事会を開いた時にその地区が来てなかったんで、前の担当の人に話を聞いたら、自治会長からそんな話は全然聞いてないと。私は協力員をやるつもりで身構えていた、という話を聞きました。そこでお願いしたいのは、推薦書が出た段階で、出ていない地区のことを、その代表の理事などに連絡していただければ、私の方からその代表の人、今までやっていただいた人に連絡してやる意思がどうか、あるかどうかを確認できると思うので、その辺のチェックをお願いできればと思います。これはお願いです。よろしくお願いします。

文化スポーツ部長

今回初めてそのような意見に出会いまして、今後、そのようなことがないように努めてまいりたいと御意見を伺いました。

《スポーツ推進委員の今後について》

意見

少子高齢化や情報化の波で、地域社会の希薄化が進んでいる中、スポーツを通

じて全ての人が幸福で豊かな生活を送れるように、また、青少年が健全に育ち、健康で過ごし、また活力の満ちた長寿社会を送り、地域社会が活力あるように、地域でスポーツ推進委員が活動しておりますが、スポーツ推進委員の平均年齢は上がってきており、若い方でも40代、50代の方が多く、現在では70歳ぐらまで仕事を続けている人も多く、仕事を続けながらスポーツ推進委員の活動するのは大変難しい現状です。各スポーツ推進委員の平均年齢は上がってきており、10年後20年後には存続が難しくなるように思います。川越市内には色々な団体がありますが、皆同じようだと思います。スポーツ推進委員として、今後どのように取り組んでいけばいいのか、市長さんのお考えをお伺いしたいと思います。

市長

スポーツ推進委員に限らず、自治会とかいろんな団体について、やはり、担ってくれる方が高齢化している、あるいは担ってくれようという人がなかなか出てこない、そういう現状がございます。なかなか難しいことではありますけれども、まずは、啓発活動と言いますか、スポーツ推進委員はこういうようなことをやってくれていて、地域のため、あるいは住民の皆さんのために活躍してもらえ、そういうような立場なのでぜひ、というような、今そういう簡単に言えば宣伝とかですね、何か分かってもらう、そのような活動を行政としてもやっていかなければならないと考えておりますので、まずはそのようなことをやっていきたいと思っております。

他の団体につきましても、他の種類の団体についても同様に、かなりこう、時代の趨勢というか、あまりいろんなことに関わりたくないという人が増えているということもありまして、そういうのはもう根本的に改善していくのは難しいことであろうかとは思いますが、少しずつ啓発活動等を通じて、やっていくというような方向で考えていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

意見

スポーツ推進委員の方でも、色々な活動を通じまして、新しい役員になれるような方を探したい、啓発活動の方を進めてまいりたいと思っておりますので、一つよろしく願いいたします。

《公園の設置について》

意見

公園につきまして、私としては公園ではなくても、原っぱでもいいと思っています。公園では整備費もかかりますし、土地の取得もありますが、南古谷地区でやはりそういう問題がありまして、探していましたら、候補地があったんですね。それを地主さんと話したのですが、例えばそういうことをする場合、都市計画課の方にお伺いしてご相談すればよろしいでしょうか。

都市計画部長

お話聞かせていただきまして、活用できそうなのか、いずれにしても費用などの問題というのがあってですね、直ちにというわけにはなかなかいかないかもしれませんが、まずはそういったお話がありましたら、情報提供いただければと思います。

意見

中学校の保護者から、原っぱでいいから、バスケットボールができるような、そういう広場が欲しいと。小学校の校庭に行くと、なんで中学生がいるのか、と追い払われて、児童公園に行けば、ボール遊びはいけない、何しちゃいけないと規制ばかりで、例えば児童公園の場合は小さい子がいるので、自治会の支会で、そういうところを見つけるのが一つの手かなと思います。個人的な意見です。

《スポーツ推進委員の広報、啓発について》

意見

これは全ての事に言えると思うのですが、今、理事会をするにしても、自治会の行事をするにしても、民生委員の行事をするにしても、かなり多くの動員、それも平日の動員、会議も平日の昼間。いろいろ若い人などに意見を聞いたのですが、やはり平日の活動っていうのが一番ネックになる。それでもやりたいっていう人はたくさんいますが、その2年、例えば民生委員を3年やった後、もう一回お願いしますと言うと、二度とやりたくない。なぜって聞くと、やはり、こういっては何ですが、高齢の方がすごく幅を利かせていて、全て、面倒なことは若い人やできる人にやらせてしまう。で、民生委員の経験者によると、次の人を選ぶのにすごく苦勞したそうです。それを市の方に相談すると、それはその地区

で考えてくださいと。そういう丸投げをされるので、できれば会議の数を減らすとかそういうことではなくて、もう少し若い方も参加しやすいような日程、参加しやすいような雰囲気を作っていただければと私自身は思います。私自身はこういうことに参加するのが好きなので参加していますが、特にマンションは、他の人とあまり関わりたくない、人のために何かしたくないって人も中にはいます。また、どこに誰が住んでいる、何をやっている、スポーツ推進委員とは何、全部1から説明しても分からない人が多いんですね。だからもう少しそういう方に対する広報活動と、あと若い人がどんどん参加できるような、土俵作りっていうのを、これから考えていかないと、10年後20年後、やってくれる人も極端に減って、できる行事もできなくなってくると思います。その辺を市の方として、啓蒙活動というか、ご指導をいただければと思います。

市長

貴重なご意見として承りたいと思いますが、対応は、まずは今おっしゃられたように、広報というか啓蒙啓発ということをやっていくことになるのかなと思っていますところですが、正直言って、なかなか大きな難しい問題であると考えております。ただ、やめてしまうのではなくて、できる限りの努力をしていかなければならないと思っていますので、行政としても色々な形で、そういう予想されるような事態にならないように、努力したいと思います。

《市民体育館について》

意見

私は、20年以上室内競技の指導をしておりまして、以前は市役所の市民体育館がございました。そこが老朽化で、アスベストの関係で取り壊しになって、それから運動公園の総合体育館で予約がかなり取りづらくなって、練習しているような状況になっています。結局川越の大会でも、川越市外の体育館に行っている団体さんも結構あるのではないかなと思っています。その辺で、体育館の計画等々、この場でお話できる内容がありましたら、ぜひお聞かせいただきたいなと思っています。

市長

市民体育館につきましては、当初は保健所の跡地を取得して、そこにという考

えであったわけでありまして、一つは保健所の跡地だけだと、ちょっと広さとして、体育館作るのに十分でないというようなこともございまして、その計画は、ペンディングの状態になっております。地元の人たちからは、保健所の跡地について、体育館を作らないんだったら、運動広場みたいなものにして使わせてくださいという、そういうご要望をいっぱいいただいております、今、その辺について検討を進めているという状況でありまして、市民体育館の計画は今のところ進んでないという現状でございます。

意見

体育館そのものが、今現在、学校の体育館を使わせてもらっているというのが現状でありまして、本当に体育館がないということなのですが、できれば東西南北に一つずつあってくれると本当にうれしいなと思っています。できるだけそれに近づいていってくれるとありがたく思います。よろしくお願い致します。

《スポーツ推進委員の研修について》

意見

スポーツ推進委員の新任研修を、年度当初に1回か2回、必ず新しくスポーツ推進委員になった方はそれに必ず出てくださいという形のものを作っていたら、強制ではないですけど、やはり、私たちも含めて、新しい方の研修会ができればいいかなと思っています。それで、今まで研修会を、年に2回やっているのですが、実技研修、それに参加される方はやっぱり70%ぐらいなので、やっていただきたいなという方は来ないという状況にあるように思います。

それで、年度当初に1回か2回、新任のスポーツ推進委員さんは勉強会があってもいいのかなと思います。

市長

本日はいろいろな、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございます。

すぐに対応できるものと、そうでないものがございまして、皆様方から出たご意見を、できる限り反映させ、やっていきたいと思っております。また、今後も、いろいろな形でのご要望等ございましたら、また別の機会にでも見せていただけたらと思います。

大変簡単ですが、皆様方に、この忙しい中お集まりいただきましたことを重ねて感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。